

使用済みIT製品のリサイクル

循環型社会の実現に向け、
使用済みIT製品の回収・再資源化に取り組んでいます。

方針

国際社会の中で製造事業者としての拡大生産者責任(EPR)¹を果たし、資源循環型の社会づくりに貢献するため、グローバル・リサイクル・ネットワークの構築を推進します。国内では、回収システムの拡大をはかるとともに、先進的なリサイクル技術を駆使して再資源化を推進していきます。

第4期環境行動計画の目標

<海外> リサイクルシステムを、2004年度末までに欧州、2006年度末までに北米、アジアで構築

<国内> 回収した使用済み製品の資源再利用率²を、2006年度末までに90%達成

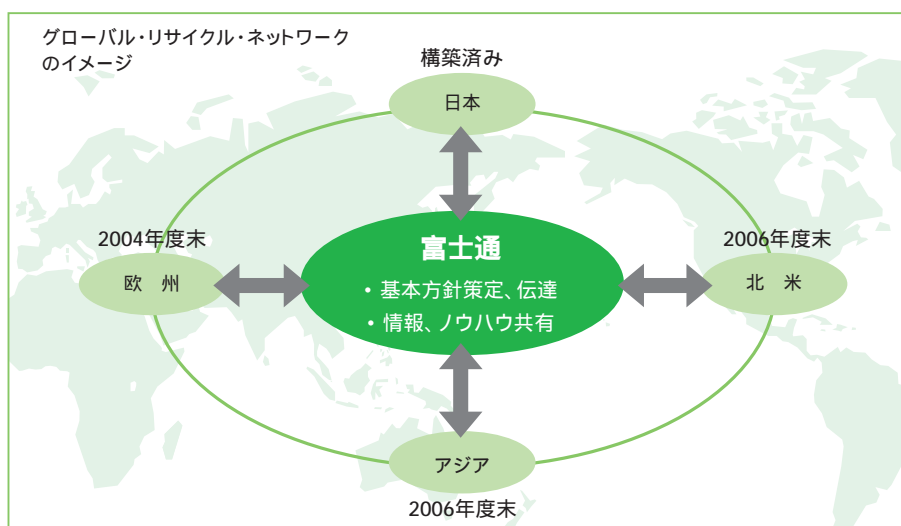
回収した廃プラスチックの再生利用率³を、2006年度末までに20%にする

取り組み

1. グローバル・リサイクル・ネットワークの構築推進

富士通は、グローバルな視野で環境負荷の低減と資源の循環・適正処理を促進するために、日本国内のリサイクルシステムと、海外の富士通グループ会社のリサイクルシステムを連携したグローバル・リサイクル・ネットワークの構築を進めています。

日本を出発点に、使用済み電気電子機器のリサイクル指令が2003年2月に発効した欧州、リサイクルの要請が高まってきている北米、アジアへと、ネットワークを拡大していきます。



2. 再資源化の推進

国内では、回収された使用済み製品の再資源化と、廃プラスチックの再生利用の推進に努めます。

成果

第3期環境行動計画の目標

- ・回収した使用済み製品のリサイクルシステムを、2003年度末までに確立(富士通グループ)
- ・回収した使用済み製品の資源再利用率を、2003年度末までに90%達成(富士通)

2003年度の実績

回収システムの拡大

事業系リサイクルセンターの増設

富士通リサイクルシステムでは、既存の富士通首都圏相模原リサイクルセンター(富士通化成、神奈川県相模原市)に加え、2004年度より新たに富士通首都圏綾瀬リサイクルセンター(PFUライフビジネス、神奈川県綾瀬市)を設置しました。物量が集中する首都圏エリアの処理能力を高め、お客さまへのサービス向上と、富士通リサイクルシステムの円滑

な運用を推進します。

法人のお客さま受付窓口/エコセンター

Tel: 045-470-5305

Fax: 045-470-5304

(受付時間9時~17時 土曜日・日曜日・祝日
および当社指定休日を除く)

国内グループ各社の

リサイクルシステムの構築

国内グループ目標として掲げた各社個別の使用済み製品のリサイクルシステム確立を、2003年5月に達成しました。さらにグループ各社が個別の取り組みを行っています。たとえば富士通コワーコではトナー回収率の向上に取り組み、富士通アイソテックではプラスチックのリサイクルについて目標値を設けて活動しています。

1、2、3の用語説明については67ページをご覧ください。

家庭系使用済みパソコンの回収/リサイクルシステムの構築・運用

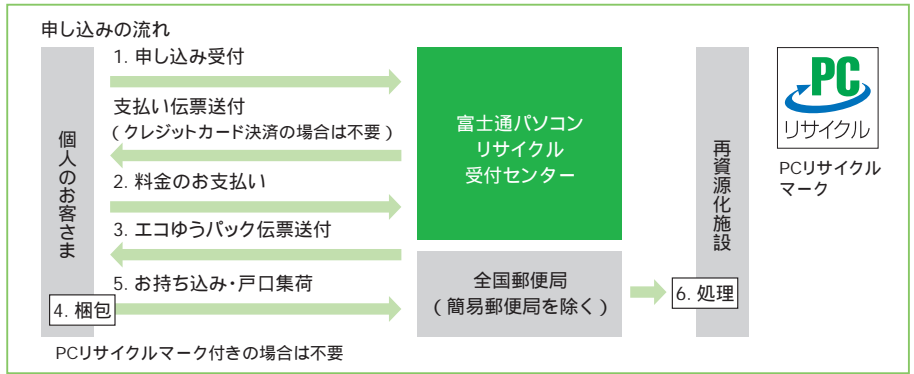
2003年10月から資源有効利用促進法に基づき、家庭系使用済みパソコンの回収・リサイクルシステムを構築し運用しています。このシステムは、日本郵政公社との提携による全国の郵便局を利用した業界共通の回収システムと、環境大臣の指定を受けたパソコン再資源化施設を利用したものです。当社では、昨年度の実績(運用当初から6カ月)で、16,710台の回収・リサイクル処理を実施しました。また、お客さまから排出されたパソコンのリサイクル処理状況が一目で確認できるサービスをWebサイトで行っています。

個人のお客さま受付窓口 / 富士通パソコンリサイクル受付センター

<http://azby.fmworld.net/recycle/>

Tel : 03-5715-3140

(受付時間9時～17時 土曜日・日曜日・祝日および当社指定休日を除く)



再資源化の推進

資源再利用率の向上

富士通による事業系使用済み製品の回収は12,172トン、資源再利用率は86.6%となり、2002年度実績84.1%から2.5ポイント向上しました。しかし、廃プラスチックのリサイクルにおける課題(材質の識別、付着金属などの除去、用途の開拓)により、第3期目標の達成にはいたりませんでした。本目標につきましては、第4期行動計画においても取り組みを継続いたします。

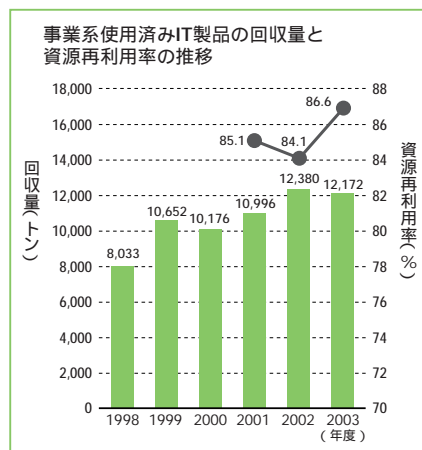
・プラスチックの分別強化

回収された使用済み製品は軽量複合素材を使用したものが多くなりましたが、単一の素材まで解体し、材料識別機などを導入して異物の除去に努めるなど、プラスチック部品の分別を強化しています。また、塩化ビニル樹脂・ポリウレタン樹脂・光ケーブルなどのリサイクルを進めました。

・マグネシウム合金のリサイクル

ノートパソコンの筐体に使用されているマグ

ネシウム合金の再生利用技術の実用化に世界で初めて成功し、2002年秋より自社回収した製品に適用しています。従来のプロセス(リサイクルなし)と比較して、ライフサイクル(CO₂換算)で約1/5の負荷低減を実現しました。これまでにマグネシウム合金30トン塗装剥離後リサイクルし、約20万台のノートパソコンに適用しています。



顧客データの漏洩防止対策

富士通リサイクルシステムでは、回収したパソコンの顧客データの漏洩を防止する積極的な取り組みを進めています。国内の(社)電子情報技術産業協会(JEITA)ガイドライン「パソコンの廃棄・譲渡時におけるハードディスク上のデータ消去に関するガイドライン」に準拠し、海外の米国国防総省(DoD)、米国国家安全保障局(NSA)などの各種消去規格に対応したソフトを開発。また、専用装置によるハードディスクの物理的破壊も実施しています。

さらに、コンパクトディスクのクラッシャーを開発(FDKエコテック)、フロッピーディスクや磁気テープなどの各種記憶媒体についても、物理的な破壊や強力な磁気によるデータ消去など、お客さまの要請に対応できる体制を整えています。



欧州におけるリサイクルシステムの構築推進

EU加盟国での製造事業者のリサイクル義務が発生する2005年8月に先行した取り組みを推進。欧州グループ会社間の情報交換ネットワークを構築して、業界団体や各国の法制化の動向の把握と共有化をはかりました。また、年2回開催の欧州環境会議を通して、作業の進捗状況の確認や懸案事項の解決をはかっています。



欧州環境会議